2023.8.23

二〇二三年度　早稲田大学大学院文学研究科　入学試験問題

【博士後期課程】　専門科目　日本語日本文学コース　※解答は別紙（縦書）

【答案作成上の注意事項】

1、解答用紙の最初に記されている時代・分野のうち、自分の選択したものを〇で囲むこと。

2、「近代」以外の時代・分野の答案は、縦枡目（表裏）の共通解答用紙に記すこと。

3、「近代」は、解答用紙が別になっているので、それを使用すること。

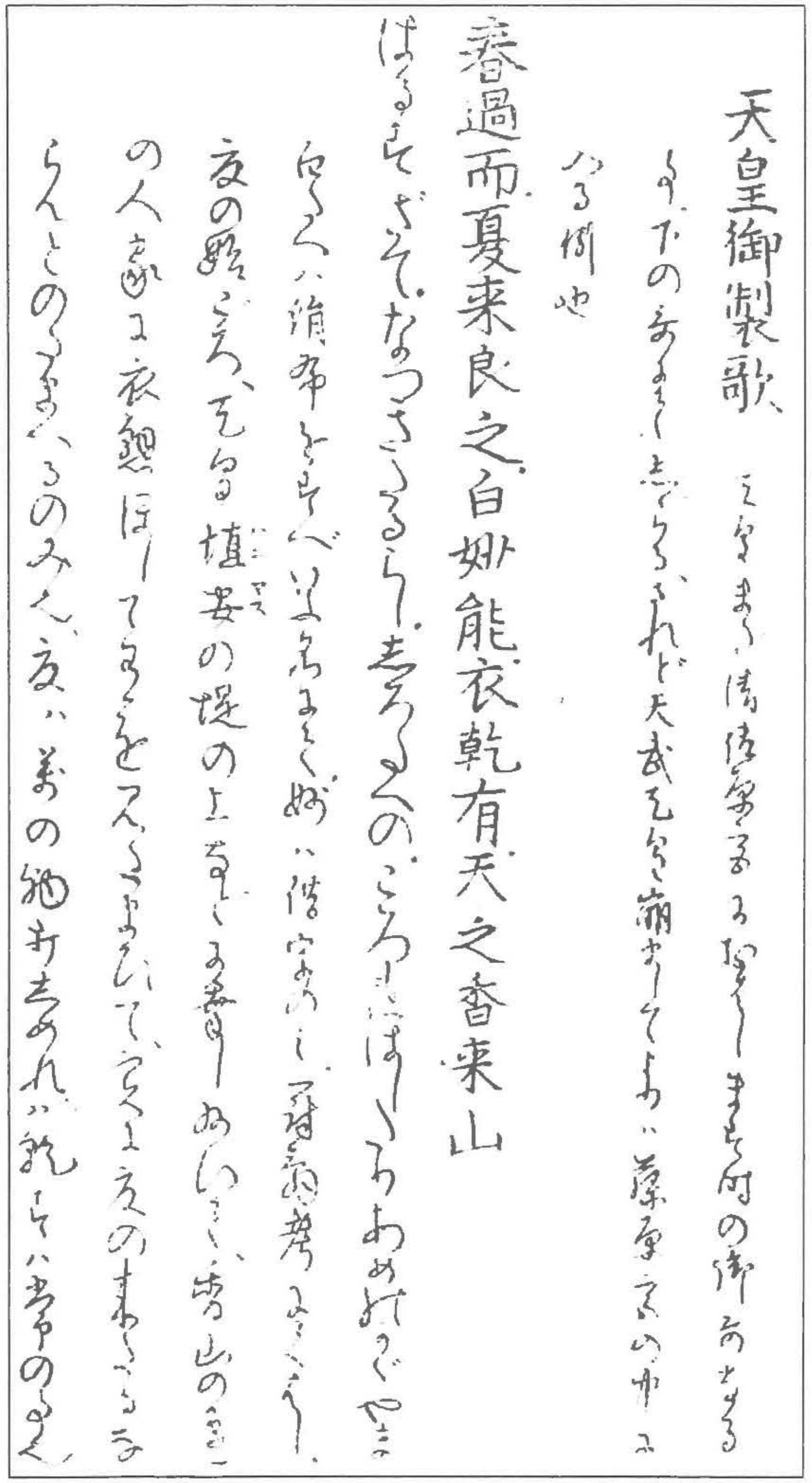
＊各時代・分野の試験問題は、左掲のナンバーの問題用紙に記されている。

上代	２
中古散文	３
中古韻文・中世韻文	４
中世散文	５
近世	６
近代	７〜１０
日本語学	１１〜１３
和漢比較文学	１４

上代

問　次に掲げる【資料1】は、『万葉集』巻一のある歌に対する『万葉集略解』の記述である。これについて、問イ～ハに答えよ。

【資料1】



※Web掲載に際し、左のとおり出典を追記しております。
早稲田大学図書館所蔵

問イ　【資料1】を正確に翻字せよ。翻字にあたっては、漢字・仮名いずれも通行の字体を用いること。改行部分は斜線（／）で示すこと。

問ロ　【資料1】の最初の行に「天皇」とあるのは、具体的にどの天皇を指すか。現在の一般的な呼称を記せ。

問ハ　【資料1】に取り上げられた万葉歌について、知るところを述べよ。

二〇二三年度　早稲田大学大学院文学研究科　入学試験問題

【博士後期課程】　専門科目　日本語日本文学コース　※解答は別紙（縦　書）

中古散文

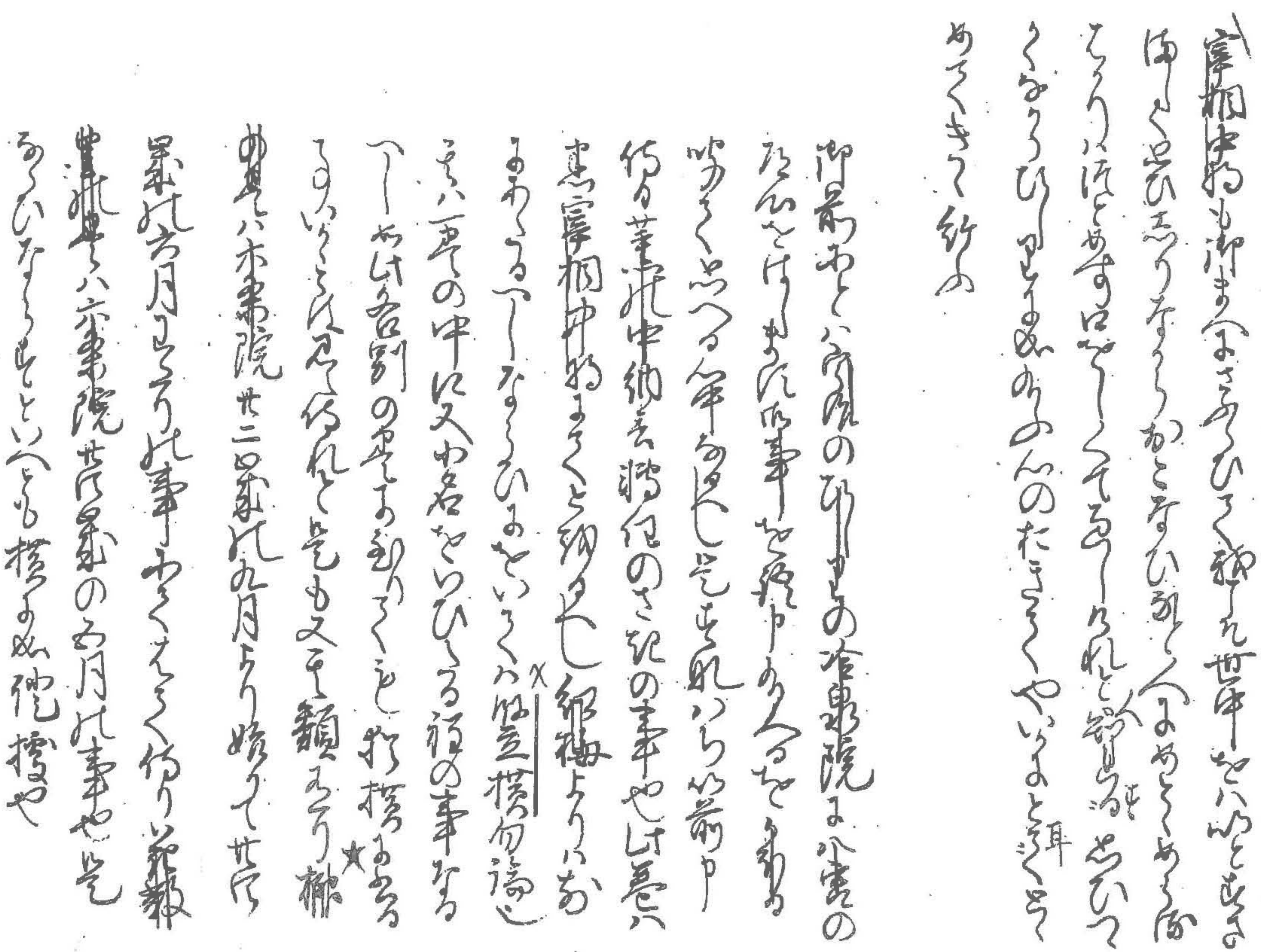
左は、『源氏物語』のある注釈書の一節である。次の問いに答えよ。

（1）左の全文を改行等そのままに翻字し、適宜必要な箇所に句読点、濁点を加えよ。傍記、ミセケチ等も翻字すること。なお、漢字については通行の字体に翻字してよい。また、作中人物名、巻名等に付されている線は翻字に際して無視すること。

（2）ここに引用されている『源氏物語』の本文は何という巻の一節か。巻名を答えよ。

（3）傍線部Xについて、二つの違いがわかるように説明せよ。

（4）★印以降で示される「六条院」の年齢は、現在用いられている年立における年齢とのずれがある。このことについて、詳しく説明せよ。



※Web掲載に際し、左のとおり出典を追記しております。
「源氏雑乱之鈔」（東北大学附属図書館所蔵）

二〇二三年度　早稲田大学大学院文学研究科　入学試験問題

【博士後期課程】　専門科目　日本語日本文学コース　※解答は別紙（縦　書）

中古韻文・中世韻文

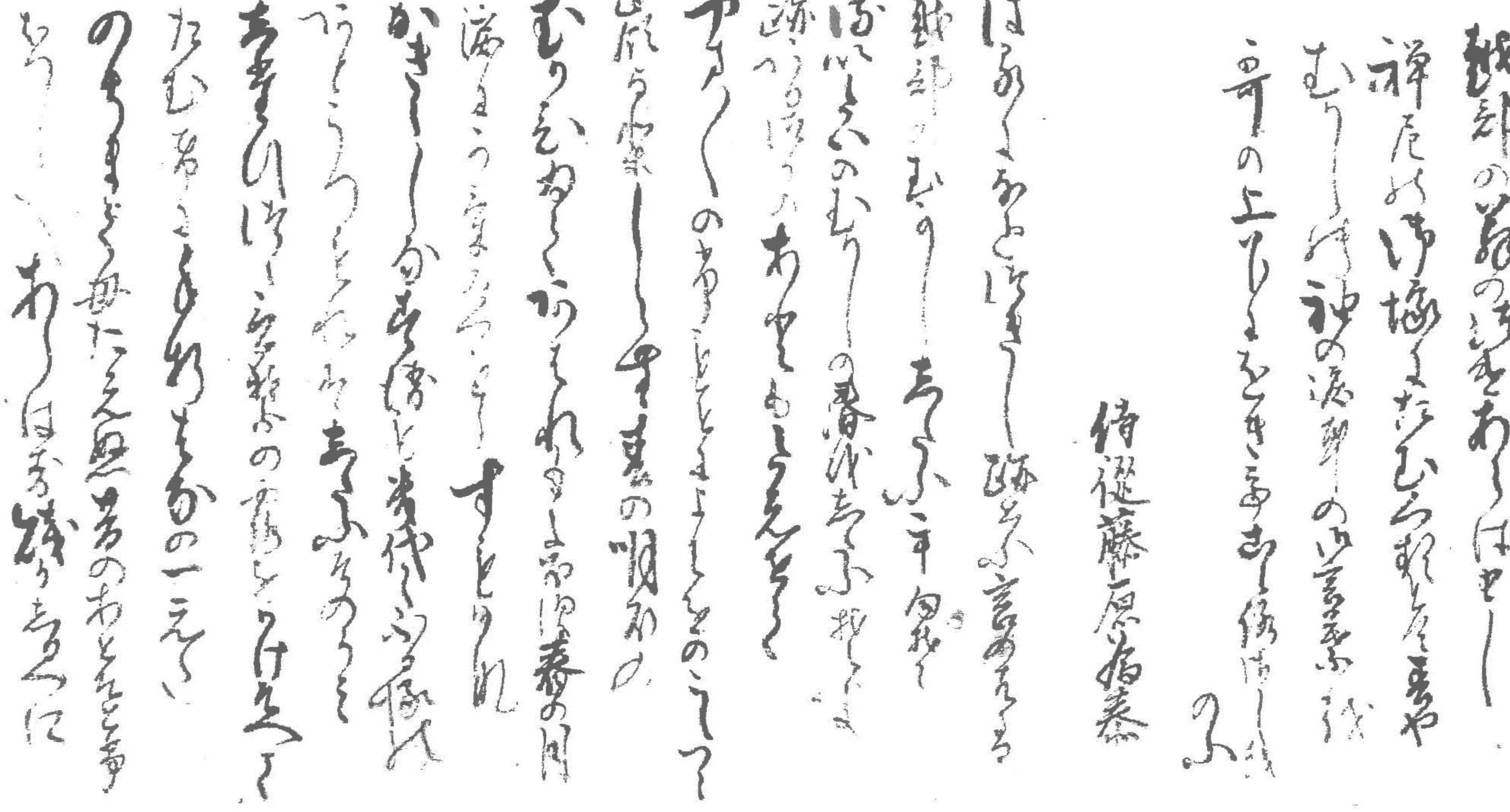
左は、上冷泉為泰の詠草写である。次の問い（1）（2）（3）（4）に答えよ。

（1）この資料を、改行等すべてそのままに翻字せよ。虫損などの箇所は、推し量って想定される文字を補入するか、□（四角）とせよ。濁点や句読点を付す必要はない。

（2）詞書二行目の「禅尼」は、『新古今和歌集』の有力な歌人である。この人物について知るところを述べよ。なお「越部」は、播磨国揖保郡（現在の兵庫県たつの市）にあった荘園の地名である。

（3）七首の和歌はどのような仕組みで詠まれているのか、簡潔に説明せよ。

（4）二首目の和歌を正確に現代語訳せよ。特に初句「るいたいの」の意味を明確にすること。



二〇二三年度　早稲田大学大学院文学研究科　入学試験問題

【博士後期課程】　専門科目　日本語日本文学コース　※解答は別紙（縦書）

中世散文

一、左の全文を改行等そのままに翻字せよ（誤字・脱字等の右脇には（ママ）と記すこと）。ただし、旧字・異体字は通行字体に改めても良いものとする。
二、左はある戦乱にまつわることを語っている。その乱の説明を加えつつ、左の内容を説明せよ。
三、左の作品名を答えよ。

大納言按察使光親中
納言宗行二位有雅宰相中将範茂宰相中
将信能[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]の禅[illegible]
[illegible]宗行卿[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
　昔南陽縣菊水汲下流而延齢
　　今東海道菊河宿西岸而失命
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

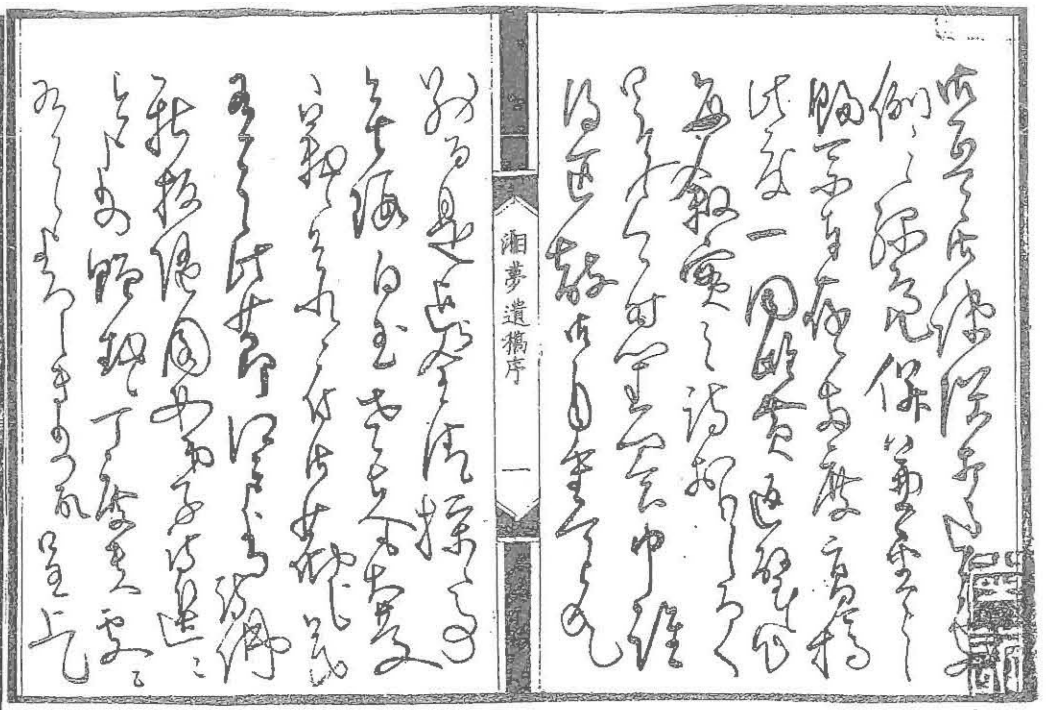
二〇二三年度　早稲田大学大学院文学研究科　入学試験問題

【博士後期課程】　専門科目　日本語日本文学コース　※解答は別紙（縦書）

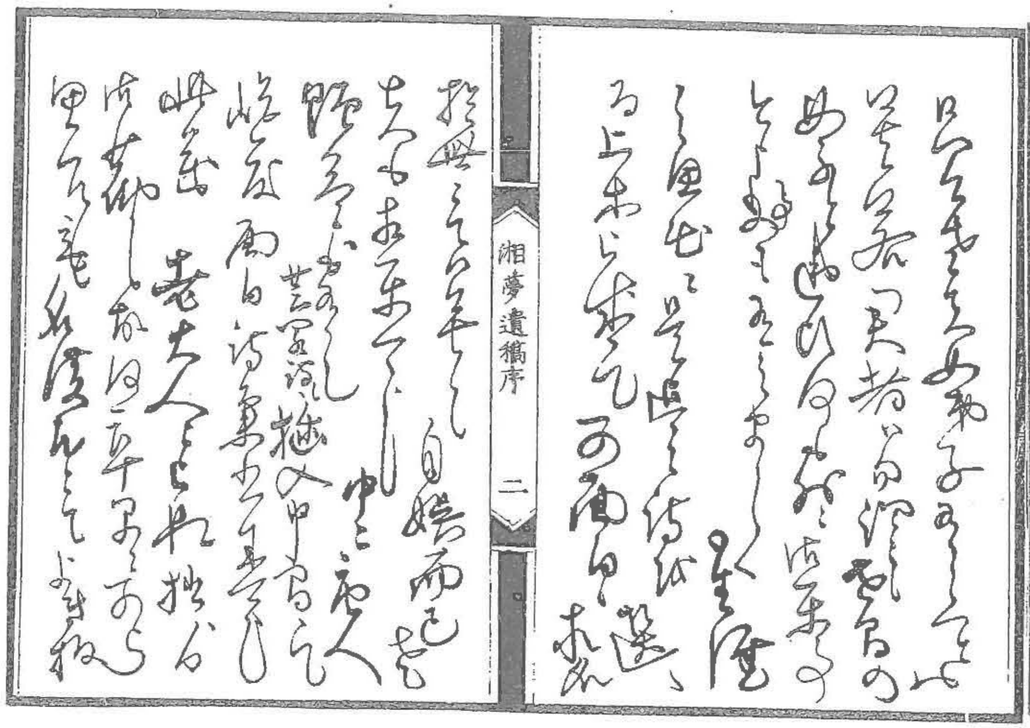
近世

左に掲げたのは、『湘夢遺稿』の序の一として模刻印刷された頼山陽の手紙である。この手紙を版本の行数と一行あたりの字数をそのままに、①②③の順に意味を取って適宜句読点を施して、翻字せよ。然る後に全文の現代語訳を作成せよ。解答欄のそれぞれの記述の冒頭に【翻字】、【現代語訳】と明記してわかりやすく区分して解答せよ。

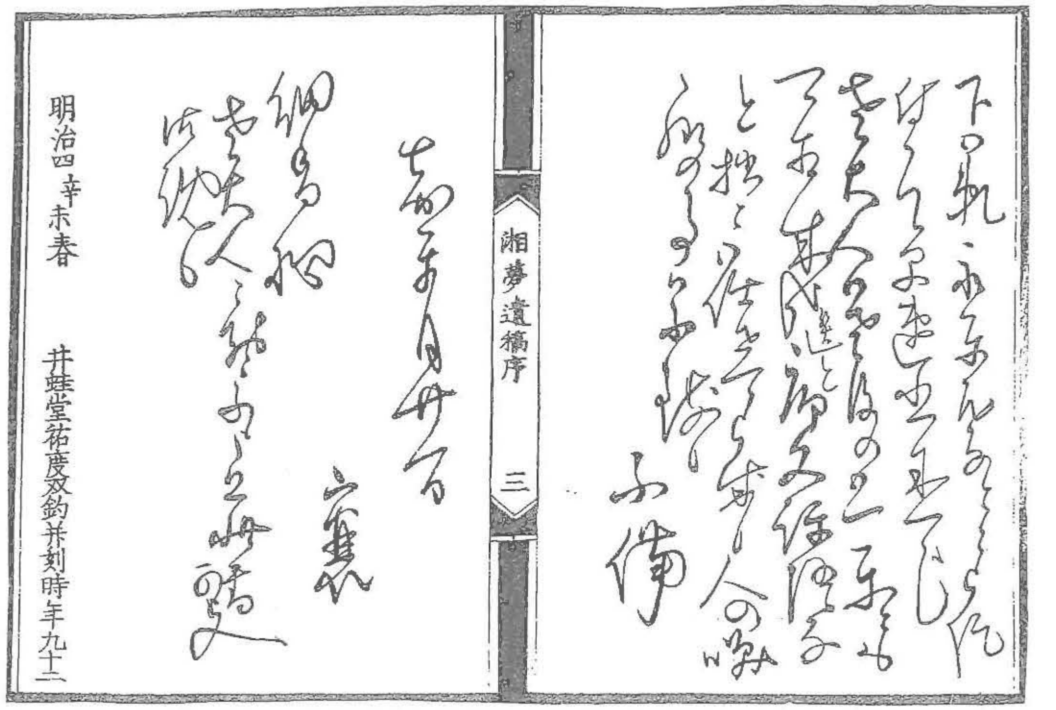
①



②



③



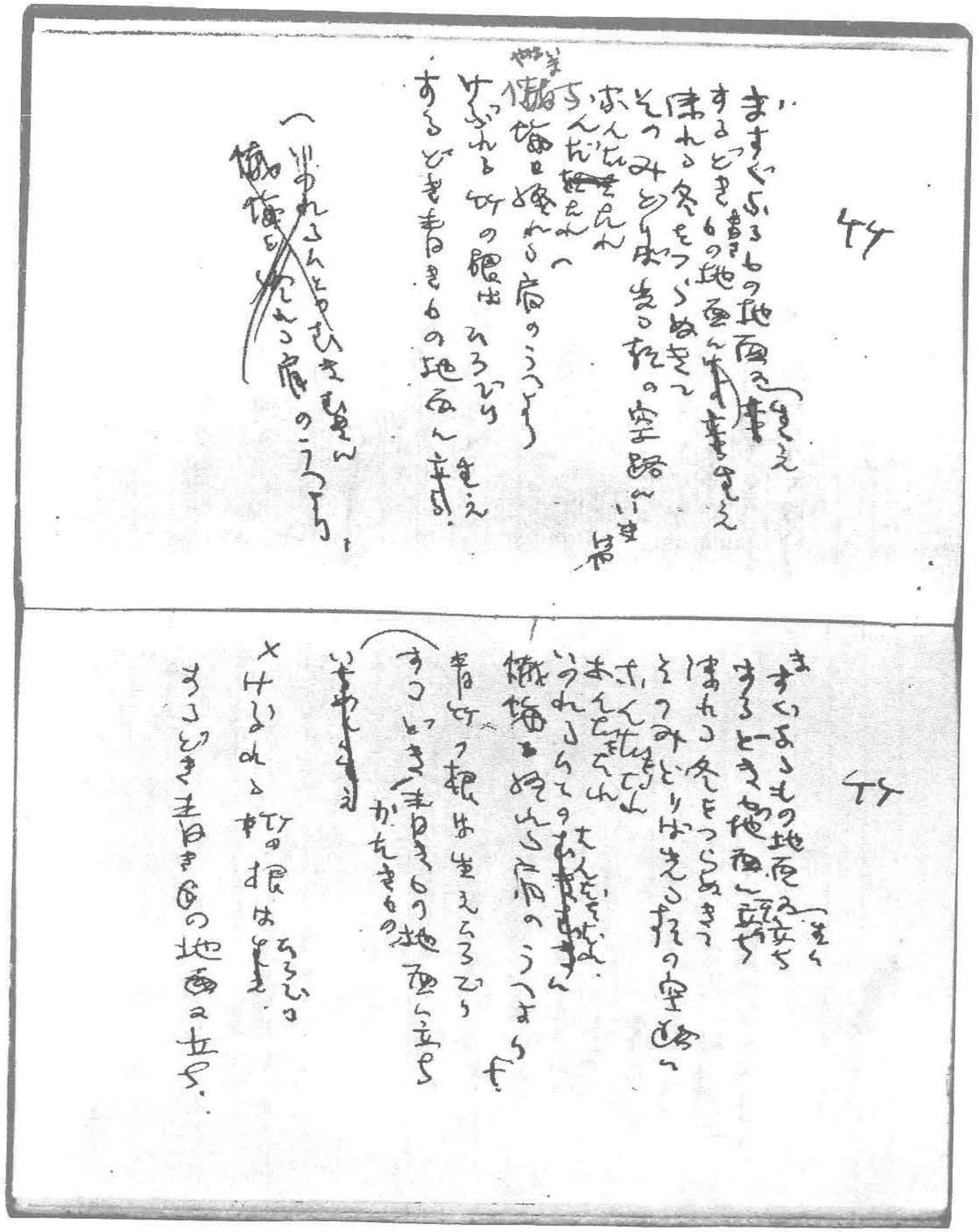
二〇二三年度　早稲田大学大学院文学研究科　入学試験問題

【博士後期課程】　専門科目　日本語日本文学コース　※解答は別紙（縦　書）

近代　次の1～3の問いに答えよ。

1、次の資料Aは、その後に掲げる萩原朔太郎の詩「竹」の二種類の草稿である。この草稿からBの詩集『月に吠える』（一九一七年初版）収録版へのテキストの改稿についてどのようなことが議論できるか、自由に論述せよ。あわせて、文学研究における本文の読解・分析について、あなたが考えていることを述べよ。

資料A



資料B

竹

ますぐなるもの地面に生え、
するどき青きもの地面に生え、
凍れる冬をつらぬきて、
そのみどり葉光る朝の空路に、
なみだたれ、
なみだをたれ、
いまはや懺悔をはれる肩の上より、
けぶれる竹の根はひろごり、
するどき青きもの地面に生え。

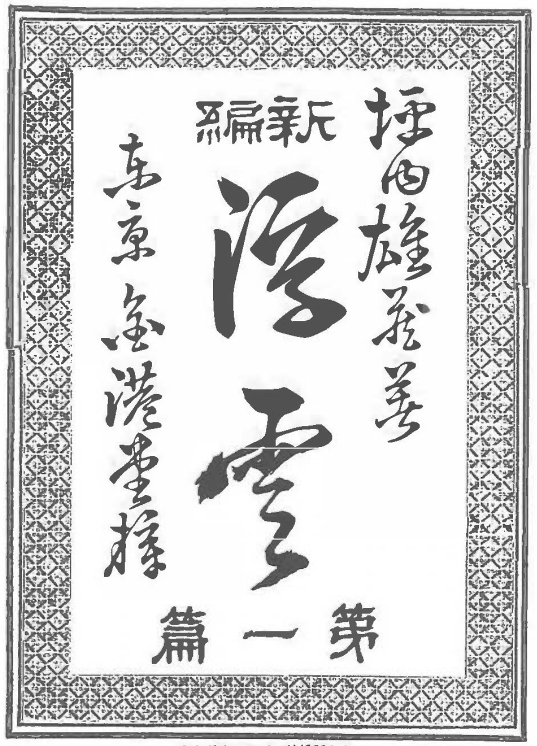
二〇二三年度　早稲田大学大学院文学研究科　入学試験問題

【博士後期課程】

専門科目　日本語日本文学コース　※解答は別紙（縦　書）

2、次に掲げる四つの資料について、作品や原稿の場合は作者名・作品名、雑誌の場合は雑誌名・主要執筆者を答えた上で、作品や原稿についてはその内容や執筆の背景、発表媒体との関わりなど、雑誌の場合は文学史上の意義などを述べよ。

①



東京新橋總十郎町圖文社印行

新編 浮雲　上篇

春のや主人
二葉亭四迷　合作

第一回　アヽラ怪しの人の擧動

千早振る神無月も最早跡二日の餘波となッた廿八日の午後三時頃に神田見附の内より塗渡る蟻、散る蜘蛛の子とうよ〳〵ぞよ〳〵沸出で來るのは孰れも顋を氣にし給ふ方〻、しかし熟〻見て篤と點撿すると是れにも種〻種類のあるもので、まづ髭から書立てれば口髭、頬髯、顋の鬚、暴に興起した拿破崙髭に狆の口めい

一

た比斯馬克髭、そのほか矮鷄髭、貉髭、ありやなしやの幻の髭と濃くも淡くもいろ〳〵に生分る髭に續いて差ひのあるのは服飾白木屋仕込みの黑物づくめには佛蘭西皮の靴の配偶はありうち、之を召す方樣の鼻毛ハ延びて蜻蛉をも釣るべしといふ是れより降つては背皺よると枕詞の付く「スコッチ」の背廣にゴリ〳〵するほどの牛の毛皮靴、そこで踵にお飾を絶さぬ所から泥に尾を曳く龜甲洋袴、いづれも釣しんぼうの苦患を今に脱せぬ貌付、デも持主は得意なもので髭あり服あり我また奚をか覓めんと濟した顏色で火をくれた木頭と反身ッてお歸り遊ばすイヤお羨しいことだ其後よ

二

り續いて出てお出でなさるは孰れも胡麻鹽頭弓と曲げても張の弱い腰に無殘や空辨當を振垂げてヨタ〳〵ものでお歸りなさる、さては老朽しても流石はまだ職に堪へるものか、しかし日本服でも勤められるお手輕なお身の上さりとはまたお氣の毒な

途上人影の稀れに成つた頃同じ見附の内より兩人の少年が話しながら出て參つた一人は年齡二十二三の男顏色は蒼味七分に土氣三分どうも宜敷ないが秀た眉に儼然とした眼付でズーと押徹つた鼻筋唯惜哉口元が些と尋常でないばかり、しかし締はよささうゆゑ繪草紙屋の前に立つてもパックリ開くなどゝいふ氣

三

②

※この問題は、著作権の関係により掲載ができません。

※WEB掲載に際し、以下のとおり出典を追記しております。
『新選　名著復刻全集　近代文学館　新編　浮雲（第一篇』（日本近代文学館、1980年）

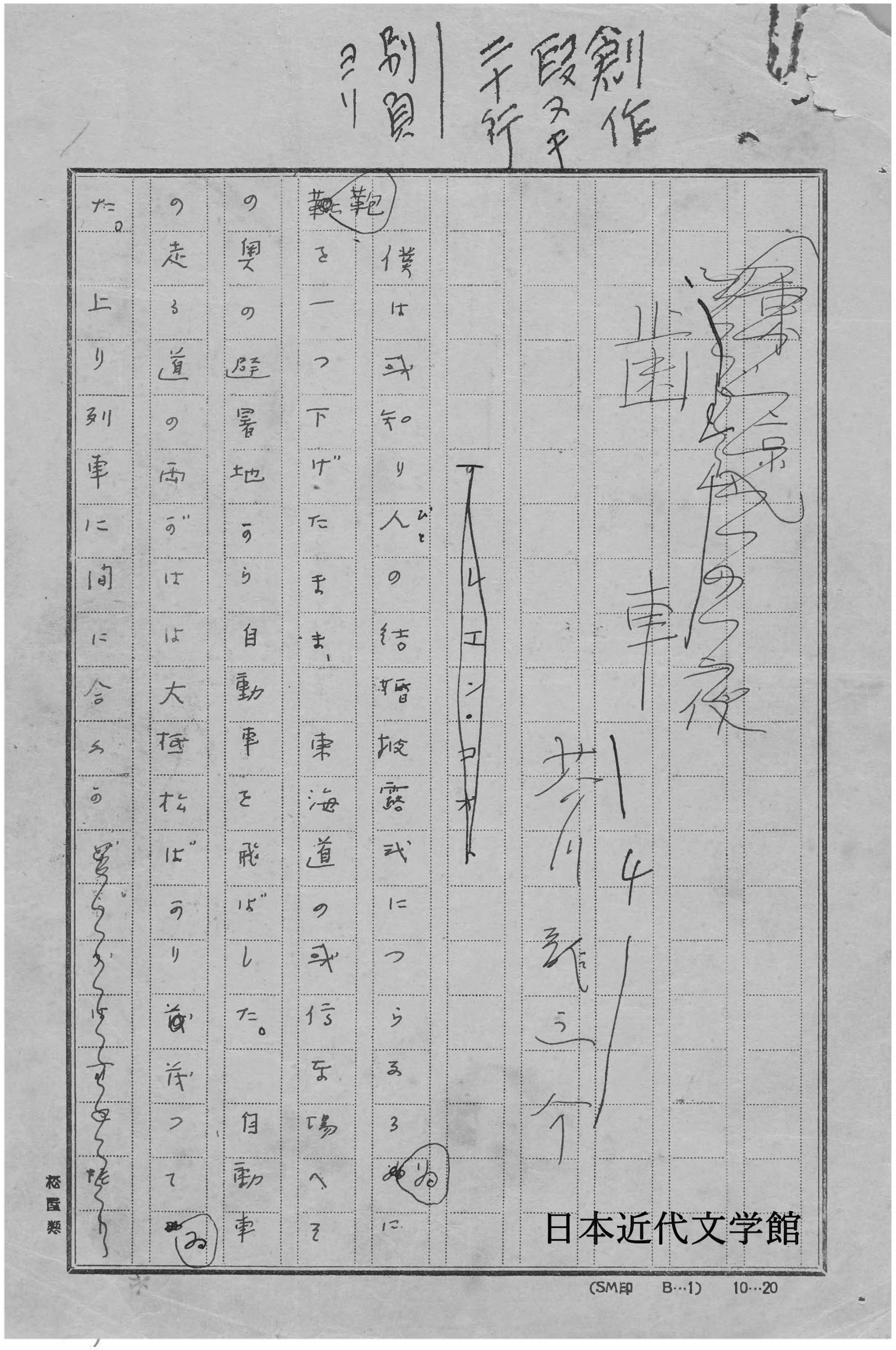
二〇二三年度　早稲田大学大学院文学研究科　入学試験問題

【博士後期課程】

専門科目　日本語日本文学コース

※解答は別紙（縦書）

③



創作 段ヌキ 二十行 別頁ヨリ

歯車

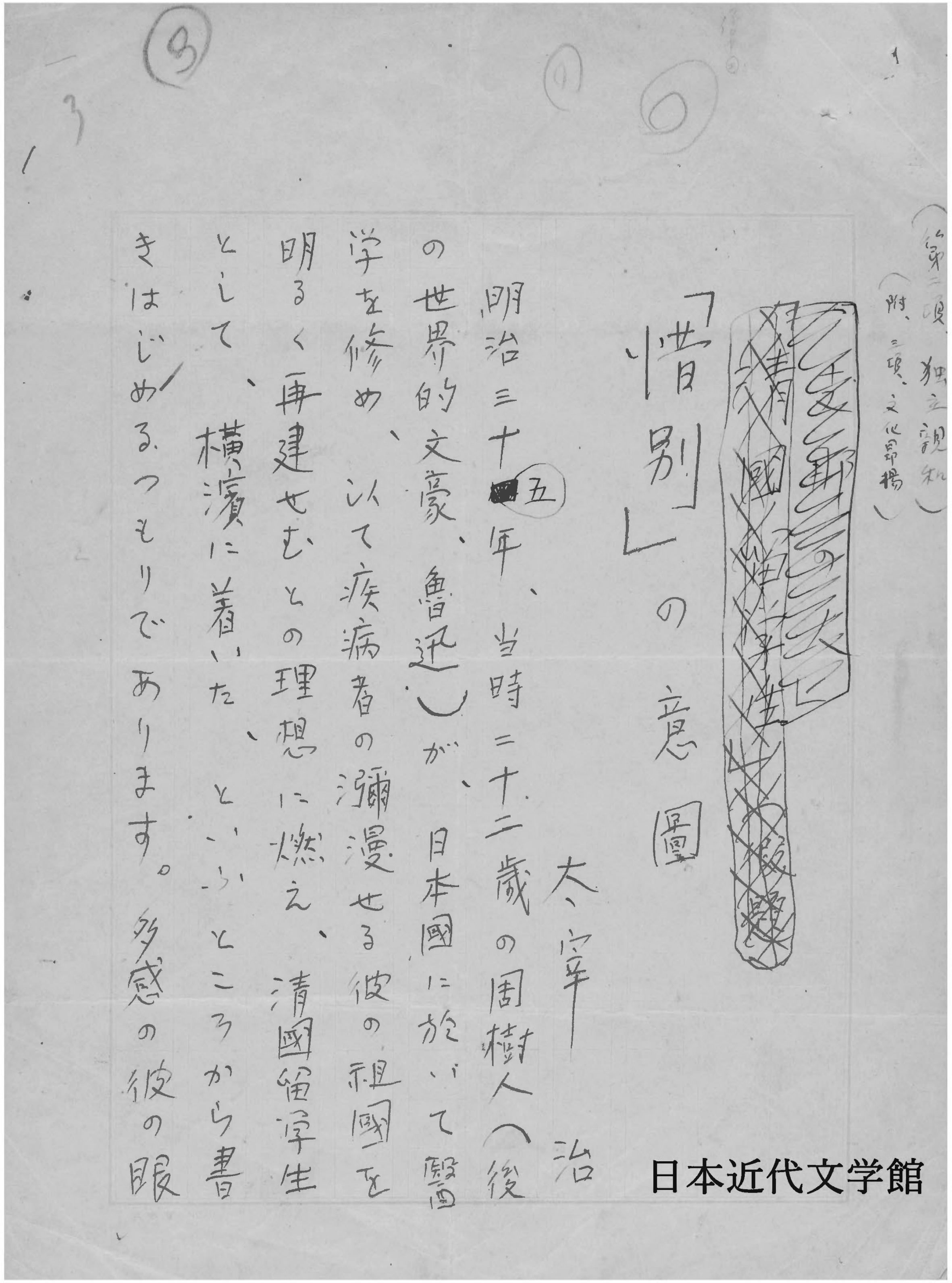
芥川龍之介

僕は或知り人の結婚披露式につらなる為に鞄を一つ下げたまま、東海道の或停車場へその奥の避暑地から自動車を飛ばした。自動車の走る道の両がははは大抵松ばかり茂つてゐた。上り列車に間に合ふか

(SM印　B…1)　10…20

日本近代文学館

④



（第二項、独立觀念）（附、三項、文化昂揚）

「惜別」の意圖

太宰治

明治三十五年、当時二十二歳の周樹人（後の世界的文豪、魯迅）が、日本國に於いて醫学を修め、以て疾病者の彌漫せる彼の祖國を明るく再建せむとの理想に燃え、清國留学生として、横濱に着いた、といふところから書きはじめるつもりであります。多感の彼の眼

日本近代文学館

3　次の文章は、酒井直樹『ひきこもりの国民主義』（岩波書店、二〇一七年）に収められた「パックス・アメリカーナの終焉とひきこもりの国民主義——西川長夫の〈新〉植民地主義論をめぐって」の一節です。できるだけあなたの研究対象、研究テーマと関係づけながら、考えを述べなさい。

最期にいたるまで、西川長夫は現在進行形の歴史との間に緊張した関係を持ち続けることのできた希有の思想家でした。暗転する日本の政治・思想状況を見据えながら、残り少ない彼自身の時間に火を灯すようにして、新たな発見にことばを与え、自伝的な記憶を想起し直すことを通じて、それまで彼が作り上げてきた概念装置を拡充したり先鋭化する試みを、彼は諦めようとはしませんでした。さらに彼がそれまでに積み上げた知見を、人文科学や社会科学の素養のまだない若い人々に伝えるためにも、彼の晩年は費やされていったといえるのではないでしょうか。（中略）

少し長くなりますが、彼の〈新〉植民地主義論の目指す方向を的確に示しているので、引用してみましょう。

> 私が本当に言いたいのは、むしろ植民地問題の研究は常に一つの過程であって、的確な結論に至ることは私たちにはありえないだろう、というペシミスティックな予想です。私たちが近代という時代に生きている以上、植民地主義はあらゆる場面、あらゆる次元で私たちに付きまとって離れない。国家や社会のあらゆる部分、あらゆる組織のなかで発生し機能している植民地主義。自己の身体や内面で育成され、時に他者に向けて強力に発散されて他者を傷つける植民地主義。他者への視線、他者に対する暴力のなかに潜む植民地主義。性差や身分、貧富や階級、身体的能力と結びついた植民地主義。国際的な力関係は言うまでもありませんが、植民地主義は私たちが社会や様々な集団の中で占める位置によって姿を変え、あるいは姿を隠して現れます。

ここで西川長夫は植民地主義には実定的な外部がないことを述べています。植民地主義の外に立って、植民地主義から自由にものをいったり考えたりできる場所は、私たちには与えられていないということです。（中略）私は、西川が考えていたのと同じような事態を、主に人種主義についても考えていました。もちろん、周知のように人種主義と植民地主義は切っても切れない関係にありますから、近代の現象としての人種主義を考える上で植民地主義の成立条件を考えざるをえないことは、十分に意識していました。人種主義を社会的な差別一般に解消せずに、その歴史性において問題とするとき、人種主義と近代植民地主義の関わりは、慎重で厳密な考察を要求してきます。私が関わっていた問題群に西川は植民地主義の側から接近していたのです。したがって、次のような西川の危惧は、まさに私の共有していた危惧でもありました。

> 自分の立ち位置を反省することなく、実証的な研究成果を積み上げて満足している幸せな研究者を見ると、どう対応してよいのか困ってしまいます。あるいは逆に、自分の内なる植民地主義に目をつむって、植民地主義の不正と加害性を叫び立てる、正義の味方的な研究者の存在をどう考えればよいのでしょうか。

自分を犠牲者の側に位置づけ、そうすることで正義の味方を気取ろうとするアイデンティティ・ポリティックスに対する防御策を、私は「理論」と呼んできましたが、西川はここで植民地主義研究における「理論」の重要性を語っている、と解釈することができます。（中略）

〈新〉植民地主義論を展開する上で、西川長夫は、共同研究という形式をとりました。また、彼自身の接近方法も、彼自身の体験を含む多くの事例を参照し、ときに自叙伝とみまがうような表現の形式をとりました。そこには、一方で地球化（グローバリゼーション）と呼ばれる新たな植民地主義の形態が出現することへの注視があり、他方では彼個人と日本国民の植民地主義責任との関わりに関する配慮があったと思います。彼の最晩年に発表された書物には、切羽詰まった問いがそれとはなしに提示されています。それは、新たな形態の資本主義・植民地主義の展開としての地球化と、かつて日本帝国の献身的愛国者であった彼の過去を、二つの別々の逸話として分離せずにどのように語ることができるのか、という問いでした。世界の構造的な歴史変化の分析を、かつて日本の植民地支配に加担した一人の「皇国少年」として、さらに植民地被支配者の後裔に対して、一人の「日本人」として、語ってみせることはどのようにして可能なのか。そこで追求されたのは、彼の個人史を世界史から切り離さずに、同時に、彼の植民地責任と資本主義の分析を綜合的に引き受けることであった、といってよいでしょう。つまり、そのような「植民地主義の時代に生きた」個人の語りが、同時に、資本主義の地球化の考察であるためには、何がなされなければならないのか、を彼は追求し続けたのです。

二〇二三年度　早稲田大学大学院文学研究科　入学試験問題

【博士後期課程】　専門科目　日本語日本文学コース　※解答は別紙（縦　書）

日本語学

日本語学を専攻する者は、次の一・二・三のいずれか一題を選択して解答せよ。

一　左に掲げたものは『雑兵物語』（内閣文庫蔵、享保十三年本）の一節である。これについて以下の問いに答えよ。

（1）全文を翻刻せよ。判読できない箇所には「□」を記せ。

（2）この文献が近世初頭の東国語の資料とされていることに照らして、その特徴的な箇所を説明せよ。

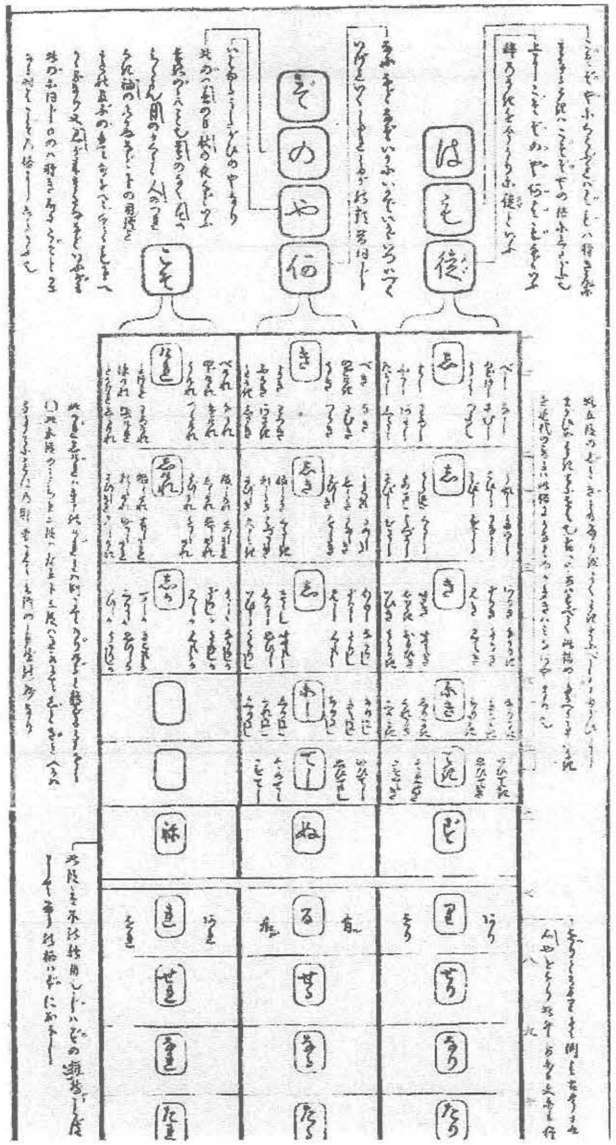
（3）近世の東国語と京阪語との違いについて説明せよ。

※この問題は、著作権の関係により掲載ができません。

二　左記に示した【日本語母語話者】、【日本語非母語話者】向けの問題群から、自分自身が該当する方の問題群を選び回答せよ。

【日本語母語話者】

次はある国語資料の一部分である（富山市立図書館ホームページより転載）。これについて、後の設問に答えよ。



※WEB掲載に際し、以下のとおり出典を追記しております。
富山市立図書館山田孝雄文庫所蔵

（1）この資料について知るところを述べよ。

（2）中央の列について、現代から見て問題とみられる部分も含めて、文法論の立場から解説せよ。

（3）一段目の例について、現代から見て問題とみられる部分も含めて、文法論の立場から解説せよ。

（4）現代語の活用論の課題について述べよ。

【日本語非母語話者】

「いま、日本語学校に（A）三ケ月の前から（B）日本語の勉強をします（C）」という日本語非母語話者の作文には、日本語として不自然に感じられる部分がある。これについて次の設問に答えよ。

（1）傍線Aの部分はどこが不自然で、どう直せばよいか。その理由は何かを文法的に説明せよ。

（2）傍線Bの部分はどこが不自然で、どう直せばよいか。その理由は何かを文法的に説明せよ。

（3）傍線Cの部分について、今のことなので「しています」にした方がいいとアドバイスをした。すると、「今、外国語コースの高校では高校生も日本語を勉強します」という言い方はできるのに、なぜ直さないといけないのかと質問された。文法的にどう答えるかを述べよ。

（4）「今」と「現在」の違いについて語彙論・文法論の観点から説明せよ。

二〇二三年度　早稲田大学大学院文学研究科　入学試験問題

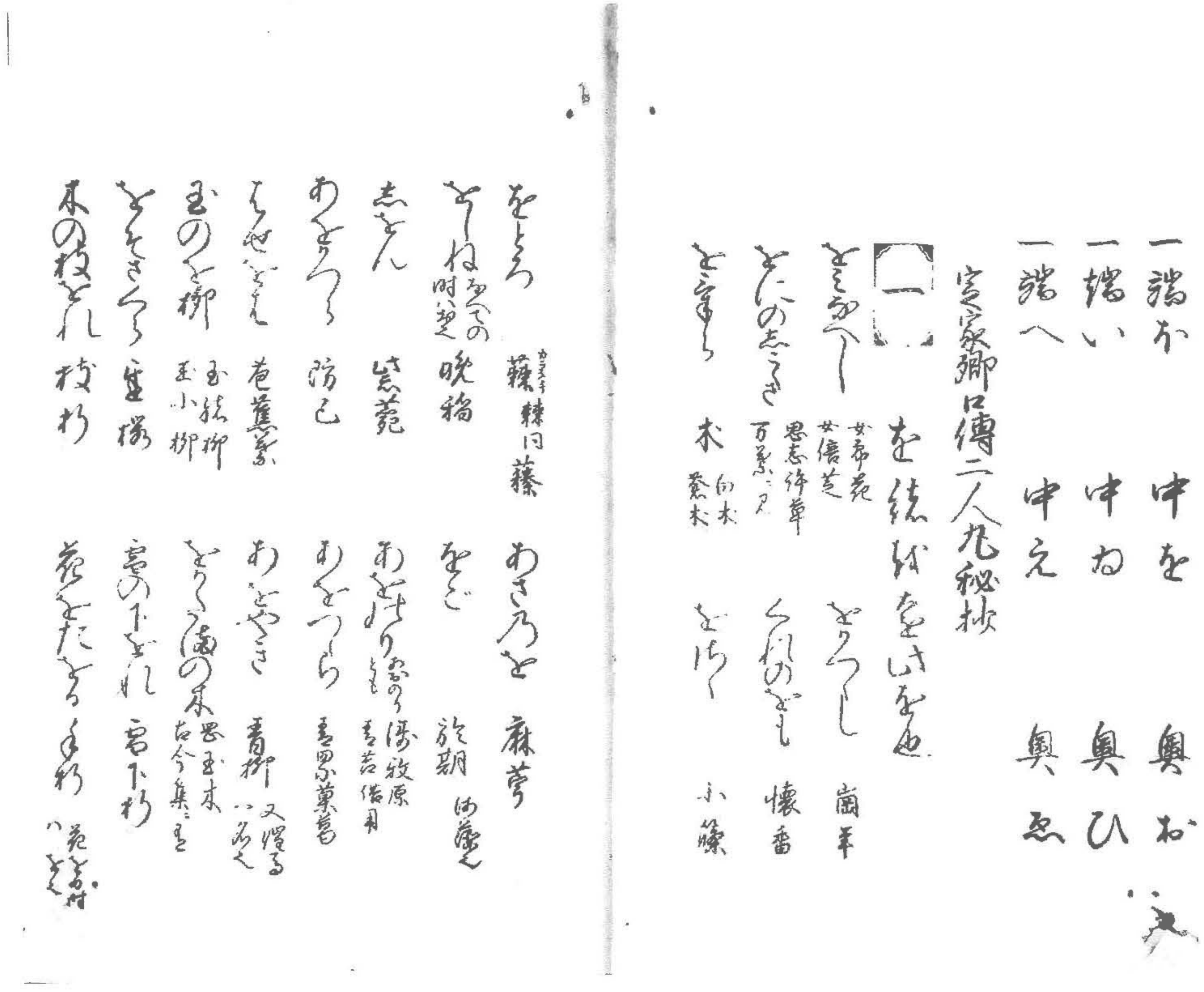
【博士後期課程】　専門科目　日本語日本文学コース　※解答は別紙（縦　書）

三　左に掲げた文献について、以下の問いに答えよ。

（１）写真の六行目（［一］という見出しの次の行）以降をすべて翻字せよ。

（２）この文献の書名と著者名を答えよ。

（３）この文献の日本語史的意義を説明せよ。



※Web掲載に際し、左のとおり出典を追記しております。
早稲田大学図書館所蔵

二〇二三年度　早稲田大学大学院文学研究科　入学試験問題

【博士後期課程】　**専門科目**　日本語日本文学コース　※解答は別紙（縦　書）

和漢比較文学

左の文を読み、次の問いに答えよ。

（1）この資料の本文を全て翻刻せよ（漢字は通行の字体を用いること）。

（2）この資料の本文を漢字仮名交じりの書き下し文に改めよ。

（3）ここに記されている内容を現代語訳せよ。

※この問題は、著作権の関係により掲載ができません。

受験番号	
氏名	

この欄以外に受験番号氏名を書かないこと。

〔日本語日本文学〕
＊選択分野に○を記入すること。

- ・上代
- ・中古散文
- ・中古・中世韻文
- ・中世散文
- ・近世
- ・近代
- ・日本語学
- ・和漢比較文学

総点

――ここから記入すること――

【「近代」以外の解答用紙】

（裏へ続く）

――これより先の余白には絶対に記入しないこと――

（次頁へ続く）

ここから記入すること

裏へ続く

―これより先の余白には絶対に記入しないこと―

日本語日本文学（近代）解答用紙（その一）

1

採点欄

日本語日本文学（近代）解答用紙（その二）

2 ①

2 ②

採点欄

日本語日本文学（近代）解答用紙（その三）

2 ③

2 ④

採点欄

日本語日本文学（近代）解答用紙（その四）

採点欄